

3-02 健康の増進と地域医療の充実

視 点

- 市民の健康を維持し、元気な市民がたくさんいるまちにすること
- 市民が安心して暮らせる医療環境を提供すること
- 高齢者がいきがいを持ち、安心して暮らせること

3-02-01 健康・保健予防

5年後の目指す姿

- 健康都市宣言の趣旨に基づく様々な施策展開により、市民の健康意識が高まり、予防や健康づくりに積極的に取り組む市民が増えています。
- 地域の健康課題の克服と科学的根拠に基づいた新しい予防対策を提案しています。

現 状 と 課 題

- 地域の健康課題の把握と解決策の検証が十分ではなく、地域特性に応じた調査、研究が必要となっています。
- コホート研究で得られた調査研究データが市民の健康づくり活動に十分に生かされていない部分があり、地域の特性に応じた新しい予防対策を提案するなど、市民自らが健康づくりに取り組む環境整備を図っていく必要があります。
- 各種事業について、住民への周知・啓発が十分でない部分があり、健康いきいきサポーターなどと一緒に市民自らが健康づくりに取り組む環境整備を図っていく必要があります。

前 期 の 方 向 性

- 地域の健康課題解決の一助となる新しい健康サービス(産業)を創出し、地域ぐるみで環境づくりを進めていきます。
- はとふる、健康の駅がそれぞれの役割と機能を十分に生かしながら、市民の健康を守るために緊密な連携を図っていきます。
- 地域の「健康いきいきサポーター」との連携をより深め、市民一人ひとりが自分の健康に関心を持ち、自らが健康づくりに取り組んでいくための環境整備を図っていきます。

数 値 目 標

※現状：H27

指 標 項 目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
健康をキーワードとした企業連携研究に参加する市民の割合 (%)	100	100	100	100	100	100
がん検診受診者数 (人) ※がん：胃・肺・大腸・乳・子宮	3,164	3,195	3,195	3,226	3,226	3,258
乳幼児健診受診率 (%)	98	100	100	100	100	100

3-02-02 高 齢 者

5年後の目指す姿

- 高齢者自身が経験や知識を活かし社会参加するなど、健康で明るく、住み慣れた地域でいきいきと生活を送っています。

3-02 健康の増進と地域医療の充実

現 状 と 課 題

- 高齢者人口の増加に伴い、要介護状態、一人暮らし、身寄りが無い、認知症者などが増加しており、介護予防や認知症対策、見守りなどのサポート体制が必要となっています。
- いきがいを持って元気に暮らしている高齢者が増えています。
- 高齢者一人ひとりにあった就労やボランティア活動、高齢者の豊かな経験・知識を活かした社会活動への参加を促進する必要があります。

前 期 の 方 向 性

- 高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、地域包括ケアシステムを充実していきます。
- 高齢者が生涯にわたり健康で充実した生活を送れるよう、いきがいづくりと社会参加を推進していきます。

数 値 目 標

※現状：H27

指 標 項 目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
介護予防事業延参加率 (%)	38	維持～増加	維持～増加	維持～増加	維持～増加	維持～増加

3-02-03 地域医療

5 年 後 の 目 指 す 姿

- 救急、小児、周産期の医療提供体制が整い、市民がいつでも適切な医療を受けることができ、安心感が高まっています。

現 状 と 課 題

- いずれの医療機関においても、医療スタッフの確保が最重要課題となっており、市民がいつでも適切な医療を受けられるようにするためには、医師、看護師を含む医療スタッフの安定的確保が不可欠となっています。

前 期 の 方 向 性

- 道内体育大学と連携しながら留萌地域に医療人育成のフィールドを構築することで、地域医療を十分理解した医師、看護師を含む医療スタッフの安定的な確保、維持に取り組んでいきます。
- 医師が行う事務的業務の負担を軽減し、医師が診療業務に専念できる環境づくりを推進することで、地域医療の充実と安心して住み続けられるまちづくりに取り組んでいきます。
- 「留萌区域地域医療構想」の方向性を踏まえ、住民・患者の視点に立ち、関係機関との連携のもとに、地域の最も重要な社会基盤の一つである医療提供体制の確保に努めていきます。
- 看護師等修学資金貸付金制度により、医療スタッフの確保に取り組んでいきます。
- へき地患者移送事業により、公共交通の不便な地域から市街地の医療機関へ通院する患者の移送を行っていきます。

数 値 目 標

※現状：H27

指 標 項 目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
看護師等修学資金貸付金利用者数 (人)	7	10	10	10	10	10

3-02 健康の増進と地域医療の充実

3-02-04 地域センター病院

5年後の目指す姿

- 医療スタッフ、設備、予算が確保され、医療圏の将来医療需要と地域のニーズを踏まえた医療が提供されています。

現状と課題

- 常勤医師の減少に歯止めがかからない状況です。
(H20当初：24人→H23当初：34人→H26当初：28人→H28.5：19人)
- 10対1看護を維持するための看護師の確保・定着が必要です。
- 病院建設から約15年が経過し、施設や医療機器の計画的な修繕や更新が必要となってきました。
- 今後は地域で医療・介護を完結していくことが求められており、医療資源の現状や医療を取り巻く環境と、急性期・高度医療を期待する住民ニーズとのギャップの解消が課題となっています。

前期の方向性

- 今後策定される道の地域医療構想を踏まえた「新・留萌市立病院改革プラン(仮称)」を策定する中で、高度な医療の提供のみならず、総合診療医の養成をはじめとする地域包括ケアシステム構築への関わりなど、自治体病院として果たすべき役割を明確化し、必要な医療資源の確保を図っていきます。
- 自治体病院として、救急、小児、周産期医療を守り続けていきます。
- 将来の医師確保の取り組みとして、病院の認知度を上げるための医学生向けの実習環境を提供していきます。
- 道内医育大学と連携しながら、地域医療を十分に理解した医師、看護師を含む医療スタッフを育成するフィールドを提供していきます。

数値目標

※現状：H27

指標項目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
市立病院利用(外来)における患者満足度 (%)	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0
分娩件数 (件)	138	144	144	144	144	144
医学生実習の受け入れ件数 (件)	21	26	26	26	26	26